

岩手県滝沢市のトンボ相

—大釜・篠木・大沢・鶉飼地域を調査地として—

佐々木全¹・佐々木悠太²・渡辺修二³

Dragonfly fauna of Takizawa City, Iwate Prefecture
: a survey in Ogama, Shinogi, Osawa, and Ukai areas
Zen SASAKI, Yuuta SASAKI, Shuji WATANABE

1 岩手大学 020-8550 盛岡市上田3丁目18-33 Iwate University, 3-18-33, Morioka City, 020-8550, Japan.
2 滝沢市 Takizawa City, Japan
3 岩手県立博物館 Iwate Prefectural Museum

Abstract

This study aimed to clarify the dragonfly fauna of Takizawa City, Iwate Prefecture. As a starting point, we surveyed four areas in the city (Ogama, Shinogi, Osawa, and Ukai areas). As a result, 44 species of 10 families were confirmed. Of these, 11 species of 7 families were newly confirmed in Takizawa City. Therefore, 60 known species belonging to 10 families are present in Takizawa City.

はじめに

岩手県滝沢市は、岩手県中部に位置し、東西約14km、南北約20km、総面積46km²、人口約55,000名の地域であり、稲、野菜、酪農等を主体とした都市近郊農業地帯である。北西部には岩手山や春子谷地がある。春子谷地は、岩手山南東の鞍掛山山麓に開けた湿原で、良好な自然環境を有し、県の自然環境保全地域（特別地域）に指定されている。

滝沢市における過去の調査記録（滝沢村教育委員会2006、春子谷地生物相調査グループ2008）でトンボ目は、10科50種が報告されている。しかし、ここでは滝沢市姥屋敷地域の春子谷地以外の調査地については不明記である。また、これらの調査は、滝沢市政開始前をはるかに遡り、四半世紀前のものである。この間の環境の変化はトンボ相にも影響した可能性もあろう。

そこで、滝沢市内全域における今日のトンボ相を明らかにすることを目的とし、その端緒として、滝沢市内の生活圏としての11地域（小岩井地域、大釜地域、

篠木地域、大沢地域、鶉飼地域、姥屋敷地域、室小路地域、元村地域、柳沢地域、東部地域、一本木地域）のうち、南部に位置し連なる4地域（大釜地域、篠木地域、大沢地域、鶉飼地域）における調査を実施した。

方法

滝沢市の4地域において、各地域のトンボの生息地あるいは飛来地であり、安全に調査が実施できると判断された次の区域を調査地とした。すなわち、①大釜地区の農業用水路周辺（移動距離1km程度、標高140m程度、田園を含む平坦地帯）、②篠木地区の多目的研修センター周辺（移動距離0.4km程度、標高160m程度、山林と田園、農業用水路を含む緩傾斜地帯）、③大沢地区の熊野神社周辺（移動距離2km程度、標高160～200m程度の山林と田園、農業用水路を含む緩傾斜地帯）、④鶉飼地区の総合運動公園内（移動距離1km程度、標高150～160m程度の山林と池を含む緩傾斜地帯）である。

各調査地においては、2018年に予備調査を実施し概況を把握した。その上で、2019～2021年について、各年の5月半ばから10月半ばまで、1回2時間程度、月2回程度訪問した。発見した個体は目視または捕獲し、図鑑「ネイチャーズガイド 日本のトンボ」(尾園ほか2012)に基づき種と雌雄の別を同定した。捕獲した個体は、写真撮影をした後リリースした。写真撮影は、自動で撮影日および位置情報が記録されるよう設定したカメラを用いた。個体数については、「1頭(単独)」「2～3頭(少数)」「4～9頭(普通)」「10頭以上(多数)」として概算にて記録した。

結果

各調査地において、10科44種が確認された。このリストを以下に示した。種の掲載順及び学名は「ネイチャーガイド 日本のトンボ」(尾園ほか2012)に従った。なお、ここには予備調査において確認された種を加えた。また、各調査地における個体数の概算、雌雄の別、過去調査における既知種との対照を表1に示した。

アオイトトンボ科 Lestidae

オツネイトンボ *Sympetma paedisca* (Brauer, 1877)
 ホソミオツネイトンボ *Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)
 アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann, 1823)
 オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883

カワトンボ科 Calopterygidae

ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, 1869
 アオハダトンボ *Calopteryx japonica* Selys, 1869
 ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata* (Selys, 1853)

モノサシトンボ科 Platycnemididae

モノサシトンボ *Pseudocopteryx annulata* (Selys, 1863)

イトトンボ科 Coenagrionidae

キイトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys, 1876
 オゼイトンボ *Coenagrion terue* (Asahina, 1949)
 クロイトンボ *Paracercion calamorum* (Ris, 1916)
 セスジイトンボ *Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)
 モートンイトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)
 アジアイトンボ *Ischnura asiatica* Brauer, 1865

ただし、キイトンボとオゼイトンボは大沢地域に、モートンイトンボは大釜地域に限られた。

ヤンマ科 Aeshnidae

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (Selys, 1883)
 ミルンヤンマ *Planaeschna milnei milnei* (Selys, 1883)
 オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* Hagen, 1856
 ルリボシヤンマ *Aeshna juncea juncea* (Linnaeus, 1758)
 ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys, 1839)
 クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* Oguma, 1915

ただし、コシボソヤンマは大釜地域に、ミルンヤンマは篠木地域に、ルリボシヤンマは鶺鴒地域に限られた。

サナエトンボ科 Gomphidae

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886
 オナガサナエ *Melligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)
 ダビドサナエ *Davidius nanus* (Selys, 1869)
 モイワサナエ *Davidius moiwanus moiwanus* (Matsumura & Okumura in Okumura, 1935)
 コサナエ *Trigomphus melampus* (Selys, 1869)
 ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)

ただし、ダビドサナエとミヤマサナエは大釜地域に、モイワサナエは大沢地域に、コサナエは鶺鴒地域に限られた。

オニヤンマ科 Cordulegastridae

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys, 1854)

エゾトンボ科 Corduliidae

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Forster, 1909

ヤマトンボ科 Macromiidae

オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans elegans* (Brauer, 1865)

コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys, 1871

ただし、オオヤマトンボは、鶺鴒地域に限られた。

トンボ科 Libellulidae

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)
 ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)
 アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)

表 1 各調査地における確認種

科	種 和名	調査地				過去の調査記録	
		大釜地域	篠木地域	大沢地域	鶺鴒地域	滝沢村教育委員会 (2006)	春子谷地生物相調査グループ (2008)
アオイトトンボ科	オツネトンボ	**♂♀	**♂♀	**♂	○	○	
	ホソミオツネトンボ	***♂♀連	**♂		**♂♀	○	
	アオイトトンボ	*♂			**♂	○	
	オオアオイトトンボ		**♂♀	***♂♀		×	
カワトンボ科	ニホンカワトンボ	***♂♀	***♂♀	*♂	○(旧名ヒガシカワトンボとして記載)	○	
	アオハダトンボ	***♂♀	*♂		×	×	
	ハグロトンボ	***♂♀	**♂♀	**♀	***♂♀	○	
モノサシトンボ科	モノサシトンボ		**♂♀	***♂♀	○		
イトトンボ科	キイトトンボ			***♂♀	○	○	
	オゼイトトンボ			**♂♀	○	○	
	クロイトトンボ	**♂♀			***♂♀	×	
	セスジイトトンボ	**♂♀			***♂♀	×	
	モートンイトトンボ	**♂♀				○	
	アジイトトンボ	**♂♀			**♂♀	○	
ヤンマ科	コンボシヤンマ	**♂♀				×	
	ミルンヤンマ		**♂		×	○(幼虫のみの確認、成虫は未確認)	
	オオルリボシヤンマ		**♂	**♂	**♂♀	○	
	ルリボシヤンマ				*♀	○	
	ギンヤンマ	*♂	*♂	*♂	**♂♀	○	
	クロスジギンヤンマ		*♂		*♀	○	
サナエトンボ科	コオニヤンマ	**♂♀	**♂♀	***♂♀	○	×	
	オナガサナエ	**♂♀	**♂♀	**♂♀	***♂♀	×	
	ダビドサナエ	**♂♀				○	
	ミヤマサナエ	**♀			×	×	
	モイワサナエ			*♀		○	
	コサナエ				*♂	○	
オニヤンマ科	オニヤンマ	**♂♀	***♂♀	***♂♀	**♂♀	○	
エゾトンボ科	タカネトンボ		*♂		*♀	×	
ヤマトンボ科	オオヤマトンボ				**♂	×	
	コヤマトンボ	*♂	*♂	*♀	**♂♀	×	
トンボ科	ナツアカネ	***♂♀	***♂♀	***♂♀	***♂♀	○	
	ノシメトンボ	***♂♀	***♂♀	***♂♀	***♂♀	○	
	アキアカネ	***♂♀	***♂♀	***♂♀	***♂♀	○	
	マユタテアカネ	***♂♀	***♂♀	***♂♀	***♂♀	○	
	マイコアカネ	**♂♀		***♂♀	***♂♀	○	
	ミヤマアカネ	***♂♀	**♂♀	***♂♀	***♂♀	○	
	コシアキトンボ			*♀	**♂♀	○	
	コフキトンボ				***♂♀	○	
	ショウジョウトンボ	*♂			***♂♀	○	
	ウスバキトンボ	**♂♀	***♂♀	***♂♀	**♂♀	○	
	ハラビロトンボ	***♂♀		***♂♀		○	
	シオカラトンボ	***♂♀		***♂♀	***♂♀	○	
	シオヤトンボ		**♂♀	**♂♀	*♂	○	
	オオンシオカラトンボ	*♂	*♂			○	

*1頭(単独), **2~3頭(少数), ***4~9頭(普通), ****多数(10頭以上)

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum* (Selys,1883)
マイコアカネ *Sympetrum kunkeli* (Selys,1884)
ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* (Allioni,1766)
コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister,1839)
コフキトンボ *Deiella phaon* (Selys, 1883)
ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* (Drury,1770)
ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius,1798)
ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys,1878)
シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys,1848)
シオヤトンボ *Orthetrum japonicum* (Uhler,1858)
オオシオカラトンボ *Orthetrum Melania* (Selys,1883)
ただし、コフキトンボは鶺鴒地域に限られた。

考察

本調査で確認された 10 科 44 種について、既知種である 10 科 50 種（滝沢村教育委員会 2006, 春子谷地生物相調査グループ 2008）と対照したところ、8 科 17 種（ミヤマカワトンボ, カラカネイトトンボ, エゾイトトンボ, ルリイトトンボ, ムカシトンボ, サラサヤンマ, ヤブヤンマ, ウチワヤンマ, ヒメクロサナエ, ムカシヤンマ, カラカネトンボ, エゾトンボ, リスアカネ, コノシメトンボ, ヒメアカネ, ハッチョウトンボ, ヨツボシトンボ）が確認されなかった。一方で、7 科 10 種（オオアオイトトンボ, アオハダトンボ, クロイトトンボ, セスジイトトンボ, コシボソヤンマ, オナガサナエ, ミヤマサナエ, オオヤマトンボ, コヤマトンボ, タカネトンボ）が新たに確認された。これらを写真 1～10 に示した。ただし、ミルンヤンマは、過去の調査での記録が幼虫のみであり、本調査によって成虫が確認された。これを写真 11 に示した。

また、「岩手レッドデータブック」（岩手県環境生活部自然保護課 2014）と対照させたところ、モートンイトトンボが D ランク（準絶滅危惧種に準ずる種として、優れた自然環境の指標となる種）とされていた。また、環境省レッドリスト（環境省 2020）と対照させたところ、アオハダトンボと、モートンイトトンボの 2 種が準絶滅危惧種とされていた。

本調査によって、滝沢市における既知種は 10 科 60 種となった。滝沢市のトンボ相を明らかにすることは、その自然環境の豊かさや、その変遷を示唆する。今後、他 7 地域における調査を実施し、市内全域のトンボ相を明らかにしたい。



写真 1 オオアオイトトンボ ♀ (2020. 7. 12. 撮影)



写真 2 アオハダトンボ ♂ (2021. 8. 1. 撮影)



写真 3 クロイトトンボ ♂ (2021. 8. 15. 撮影)



写真 4 セスジイトトンボ ♀ (2021. 6. 19. 撮影)



写真5 コシボソヤンマ ♀ (2020. 8. 29. 撮影)



写真9 コヤマトンボ ♀ (2020. 7. 25. 撮影)



写真6 オナガサナエ ♀ (2021. 8. 15. 撮影)



写真10 タカネトンボ ♀ (2020. 7. 26. 撮影)



写真7 ミヤマサナエ ♀ (2021. 7. 4. 撮影)



写真11 ミルンヤンマ ♂ (2018. 8. 13. 撮影)



写真8 オオヤマトンボ ♂ (2021. 8. 22. 撮影)

引用文献

- 春子谷地生物相調査グループ（2008）春子谷地生物相調査報告書．滝沢市．
- 岩手県環境生活部自然保護課（2014）いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web 版．岩手県．
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/rdb/index.html>（参照2021/09/07）．
- 岩手県滝沢村教育委員会（2006）滝沢村野生生物分布調査報告書．滝沢村文化財調査報告書33集，p189．滝沢村．
- 環境省（2020）環境省レッドリスト．
<https://www.env.go.jp/press/107905.html>（参照2021/09/07）．
- 尾園暁・川島逸郎・二橋亮（2012）ネイチャーガイド トンボ図鑑．文一総合出版，東京都．

要 旨

岩手県滝沢市におけるトンボ相を明らかにすることを目的とし，その端緒として，市内4地域（大釜地域，篠木地域，大沢地域，鶉飼地域）における調査を実施した．その結果，10科44種が確認された．このうち，7科10種が新たに確認された．したがって，滝沢市における既知種は10科60種となった．

キーワード：トンボ相，滝沢市，大釜地域，篠木地域，大沢地域，鶉飼地域